

基礎研 レター

新型コロナ接触確認アプリ(COCOA) 利用意向をもつ人の評価ポイント(10代編)

保険研究部 准主任研究員 村松 容子
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA」は、10月22日現在、ダウンロード数は1,873万件、陽性登録者数は1,288件で、ダウンロード数は日本の人口1億2千万人に対して16%、陽性者の登録はアプリがリリースされた7月以降の陽性者約7万6千人に対して1.7%程度にとどまっている。当初、期待されていたほどには活用されていない。

ニッセイ基礎研究所では、6月末以降、ウィズコロナ・アフターコロナの行動を予測するために、20～60歳代の全国に住む男女約2千人を対象とする「新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査」をインターネット調査にて、継続的に実施している。このデータを使った「[新型コロナウイルス接触確認アプリ\(COCOA\)利用意向が強いのはだれか](#)」「[新型コロナウイルス接触確認アプリ\(COCOA\)利用意向のある人の評価ポイント](#)」において、20～60歳代で新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)の利用意向が高い人は、新型コロナウイルスの感染への不安があり、行動自粛を行っている人に多く、「自分の感染予防への効果は期待できなさそう」と考えつつも、「多くの人利用することで、国内の感染が早く収束する」「濃厚接触通知があった場合に、優先的に検査を受けられる」とアプリを肯定的に捉えていた。9月の調査では、6月の調査と比べて、接触確認アプリを「ぜひ利用したい(もう利用している)」は上昇していたが、「場合によっては利用したい」もあわせると利用意向は低下していた。

本稿では、上記調査とあわせて15～19歳を対象に行っている「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査～10代編」の7月初旬調査¹と、10月初旬調査²のデータを使って、10代の学生における接触確認アプリの利用動向とアプリについて考えていることを紹介する。

¹ 2020年7月3日実施。調査対象は全国に住む15～19歳の男女(LINEリサーチのモニタ)。有効回答数420。

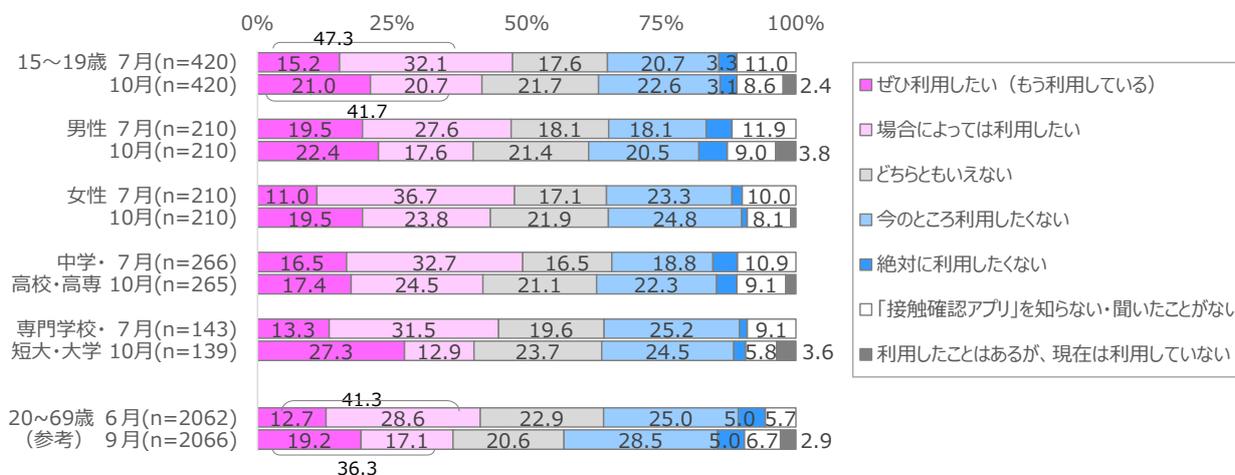
² 2020年10月7～8日実施。調査対象は全国に住む15～19歳の男女(LINEリサーチのモニタ)。有効回答数420。

1—アプリの利用意向

7月初旬と10月初旬における接触確認アプリ利用意向を図表1に示す。7月の調査と比べると、10月の調査で「ぜひ利用したい（もう利用している）」は15.2%から21.0%へと増加しているが、「場合によっては利用したい」をあわせると47.3%から41.7%へと低下していた。これは、男女別、学生種別でみても同様で、20～60歳代とも同じ傾向だった。

「接触確認アプリを知らない・聞いたことがない」は、やや低下したが、10月時点でも8.6%と1割近くを占めた。

図表1 新型コロナ接触確認アプリの利用意向



(出典) ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査～10代編（第1回、第2回）」（以下、同じ。）

2—アプリについての考え方

接触確認アプリについてどのように考えているか聞いたところ、全体では「多くの人が利用することで、国内の感染が早く収束する」が30.2%ともっとも高く、「自分の感染予防への効果は期待できなさそう（28.6%）」「濃厚接触通知があれば、優先的に検査を受けられる（24.2%）」「どのようなものか興味がある（22.9%）」が続いた（図表2）。性別、学生種別でみても、「多くの人が利用することで、国内の感染が早く収束する」が最多だった。

男女別にみると、女性で「濃厚接触通知があれば、優先的に検査を受けられる」が高かった。中学・高校・高専か、専門学校・短大・大学かによる差はほとんどなかった。

利用意向別にみると、「ぜひ利用したい（もう利用している）」で、「多くの人が利用することで、国内の感染が早く収束する」「濃厚接触通知があれば、優先的に検査を受けられる」「セキュリティに配慮がある」「周囲の人の多くが利用している」「家族や学校・職場等、身近な人に強く推奨されている」が高かった。特に、「周囲の人の多くが利用している」「家族や学校・速ば等、身近な人に強く推奨されている」は、「ぜひ利用したい（もう利用している）」が突出して高くなっていった。また、「今

のところ利用したくない・絶対に利用したくない」では、「自分の感染予防への効果は期待できなさそう」「その他」が高かった。

前稿で示した20～69歳における利用意向別の考え方と、おおむね同じ傾向がみられたが、20～69歳では、「自分の感染予防への効果は期待できなさそう」「セキュリティに配慮がある」は利用意向によらなかったのに対し、今回の調査では利用意向によって差があった。

図表2 接触確認アプリについてどのように考えているか

		N	がご早く多くの収束するの感染	多くの人から優先的に検査を受けられる	濃厚接触のリスクを減らす	セキュリティに配慮	周囲の人の多くが利用	家族や学校・職場等に強く推奨されている	どのようなものか	その効果は期待できるか	その他
15～19歳全体		384	30.2	24.2	10.7	4.7	8.1	22.9	28.6	11.5	(%)
性別	男性	191	31.4	19.4-	12.0	6.3	10.5	19.9	30.9	8.4	
	女性	193	29.0	29.0+	9.3	3.1	5.7	25.9	26.4	14.5	
学生種別	中学・高校・高専	241	31.1	24.9	10.0	3.7	7.5	24.1	29.5	12.0	
	専門学校・短大・大学	131	29.0	22.1	12.2	6.1	9.9	19.1	29.0	11.5	
利用意向	ぜひ利用したい(もう利用している)	88	60.2+	44.3+	17.0+	11.4+	18.2+	12.5-	15.9-	4.5-	
	場合によっては利用したい	87	41.4+	29.9	6.9	2.3	8.0	37.9+	14.9-	3.4-	
	どちらともいえない	91	19.8-	16.5-	12.1	4.4	2.2-	22.0	27.5	16.5	
	今のところ利用したくない・絶対に利用したくない	108	7.4-	11.1-	7.4	0.9-	3.7-	20.4	49.1+	18.5+	

(注) 全体と比べて高い数値に「+」、低い数値に「-」(5%有意水準)

学歴が「その他」、利用意向が「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、人数が少なかつたため表記していない

3——10代のアプリ利用意向も低下気味。アプリへの考え方は20～69歳と大きな差はない。

今回の調査結果から、接触確認アプリを「ぜひ利用したい(もう利用している)」は7月時点より増加していたが、「場合によっては利用したい」をあわせると減少していた。

アプリに対する考え方は、利用意向がある人では、「多くの人利用することで、国内の感染が早く収束する」が、利用意向がない人で「自分の感染予防への効果は期待できなさそう」が、それぞれ高かった。20～69歳の同時期の結果とおおむね同じ傾向がみられた。

一方で、20～69歳調査と比べると、10代では、「ぜひ利用したい(もう利用している)」と回答した人で、「周囲の人の多くが利用している」「家族や学校・職場等、身近な人に強く推奨されている」が他層と比べて高かった。

日々の学校生活の間では、仮に感染した人がいても、アプリに頼らずとも濃厚接触者を特定しやすいと思われるので、アプリへの期待が少ないのかもしれない。しかし、冬から春は学生にとっては、学校行事、受験やそれに向けての模擬試験、卒業式、入学式と、他校の学生を含めて人との交流が著しく増え、感染拡大が懸念される季節である。大切な行事だけに、多少の体調不良があっても言い出せない学生もいるかもしれない。少しでも早い感染収束に向けて、アプリの効用を繰り返し周知し、大きなイベント前後には学生同士が誘い合わせて使ってみるといったような試みも良いかもしれない。